

伝統文化交流事業 in ゆとろぎ

富山県民謡 越中八尾おわら保存会

越中おわら節は、二百十日の風の厄日に風神を慰め、豊作を祈る踊りです。音の基調をなす三味線、哀愁の音色を奏でる胡弓、唄の調子を盛り上げる太鼓、あじわいのある唄、そして粋で力強い男踊りと優雅な女踊りをお楽しみください。保存会は昭和4年に発足して以来、江戸時代に始まり今日まで伝えられてきた唄、踊り、三味線、胡弓、太鼓、囃しなど地方(じかた)の総合的な伝統芸能である民謡「越中おわら」の保存と後継者の育成に努めています。平成17年には法人格を取得し、将来にわたり日本を代表する伝統芸能の保存と継承を目的に次の事業を行っています。

- 1 民謡「越中おわら節」の継承と技量向上を目的とする温習会及び演技発表大会の開催
- 2 民謡「越中おわら節」の後継者の育成及び派遣に関する事業
- 3 民謡「越中おわら節」の新しい歌詞の募集、その選定
- 4 民謡「越中おわら節」に関する資料の収集及び、歴史等調査・研究

※ 富山県民謡 越中八尾おわら保存会ホームページより



柏木野神代神楽保存会 (檜原村)

東京都指定無形民俗文化財

柏木野地区の鎮守社である南郷神社へ、五穀豊穡・家内安全・悪疫祓いを祈願するとともに、住民の相互慰安も兼ねて上演されている神代神楽です。創始年代は不詳ですが、用具品などから推察して江戸時代末期には始まっていたと考えられます。

明治30年代には、二宮(現あきる野市二宮)の神楽師前田某氏を招いて指導を仰ぎました。また、大正5年、6年の両年には、二宮神社の井上多三郎、田倉鶴吉の両氏を招いて神楽を整備しました。その後、第一次世界大戦から太平洋戦争にかけて中断されておりましたが、戦後は有志の努力で復活し今日に至っております。

昭和54年には地方色豊かな神楽として東京都指定無形民俗文化財に指定されました。

演目は全部で12曲あり、古くから“柏木野の十二神楽”と呼ばれてきました。全演目を通すと夜を徹することになるので、昨今ではその中から5～6曲を選んで上演し、12時頃までには終わるように進められています。今回、ゆとろぎで上演するのはその中の「神剣貢」になります。

全国的にも大変貴重な柏木野神代神楽をぜひご覧ください。

